

# 皆様に支えられ…そして今

平成 21 年 7 月 26 日、訴え続けた一週間の選挙活動期間を終えた私は、やり終えた充実感を抱きながら投票結果を待っていた。

## 子どもから大人へ

昭和 50 年 9 月 16 日に生まれ 2 ヶ月後の 11 月 28 日に三郷市に移り住んできた。みさと団地 12 街区にて育つこと 25 年、私が 1 歳半の頃、昭和 52 年 7 月父である逢澤義朗は三郷市議会議員選挙に挑戦し初当選を果たした。以来 33 年のあいだ多くの方々に支えられ市議会 5 期県議会 3 期と市政、県政の壇上へと上がらせていただいている。

今でこそ高齢化しているみさと団地ですが、当時は同年代の子供たちが多く、小学校、中学校と沢山の友人達と学び、遊び、競い、励ましあって来た。幼少からの多くの友人達が、私の人生を賭した挑戦に力を貸してくれたこと、これが地方議員としての今の立場で活動させて頂いている大きな要因の一つである。

地方政治に挺身する父、逢澤義朗の長男として育つ過程にはいろいろな気持ちが芽生え、父や母と口論もしばしば…。小学校の運動会の時、大きな声で挨拶する父を見て恥ずかしいと感じたことを覚えている。様々な経験をした十代を疾風のように駆け抜け、成人式では、松葉杖を持ちながらの出席。交通事故にあい十代最後の年は病院で過ごしていた。退院後、八潮市にある(株)オリエント通商に十年間勤務。青木忠秀社長に人間学を学んだ。厳しく、厳しくそして温かく育てて頂いた。

## 大西英男先生の下で

政治の道を志していなかった私が、ふと心に小さな思いを感じ始めたのは、三十歳になりかける頃だった。これからの人生、自分らしく生きていくために何をしていけば良いのか真剣に悩んだが答えを見出すことは出来なかった。しかし、幼少より父の背中を見て育った私は、いつの日か同じ道を歩みたい、心を大事にし皆様のお役に立ちたいという気持ちになるかもしれないと思い、門を叩いた。参議院選挙を 1 年半後に控えたある日、当時東京都議会議員であった大西英男先生から父へ一通の手紙が届いた。父とは故島村一郎元衆議院議員の秘書の先輩後輩の間柄であり、参議院選挙の全国比例区に挑戦する決意をした旨の手紙であった。還暦をもうすぐ迎える大西先生が新たな挑戦される決意をされたこの時と、30 歳の自分が新たな人生を歩もうと心に抱いたその時が重なったことに大きな運命を感じた。大西英男先生の下で 5 年ないし 10 年政治を勉強し、その中で自分が政治を志してよいのか、それとも志をもつ方の黒子役として違った角度で政治に携わるかを判断しようと心に決めた。

初めて大西英男先生の門を叩きに行ったときのこと。

「自分は随分やんちゃをしてきました」と申し上げたところ…今までの優しい笑顔が急変、ものすごい怖い顔に…

大西先生「何を言っているんだ逢澤君！過去じゃないんだよ、未来なんだよ。政治を志す者はより良い未来を築くためにこれからどうして行くかなんだよ。過去は教訓にきなさい。その教訓を生かして、人より温かい心を持ち未来に挑戦して行きなさい」もやもやしていた何

かが吹き飛んでいった瞬間だった。ものすごい怖い顔をしていた大西先生が優しい笑顔に... 大西先生の参議院選へ向け精一杯行動しよう、そして政治家としての行動、心、言葉、いろいろなことを学び取ろうと思った。

参議院選は安倍政権の沈みにより敗北、大西先生の挑戦も敗北に終わった。現在、大西先生は自由民主党東京都連副会長としてご活躍だが、政治家としての挑戦を諦めてはいない。**遅れても、おくれても、君に誓いしこと忘れめや(高杉晋作)**大西先生の胸中です。

厳しい状況下であっても私を秘書として育てて下さった。暑い夏の戦いから1年を過ぎた頃大西先生から一言。「来年三郷の市議選があるのだろう。逢澤君なら大丈夫だ、立候補しなさい。スピーディーな時代の変化に対応していかなければ政治家としても遅れをとる、4年待つことは考えず今、決意しなさい。今がチャンスだ」一抹の不安もあったのだが、決意をした時だった。

## 市議選

33歳になろうとしているこの時1年後の戦いに向け活動を始める。吉岡貞義大広戸町会長に相談に伺ったところ、快くご了承して頂いた。そして吉岡町会長が中心となって後援会作りをしていただき、年末には逢澤圭一郎と地域をよくする会という名称で後援会を立ち上げていただいた。会長に竹本裕司大広戸町会副会長、副会長に稲垣栄仁蔵町会長、谷古宇勇彦成5丁目町会長、幹事長に濱口稔氏、事務局長に宮田米穂氏、代表世話人に吉岡貞義大広戸町会長、また、各地域から多くの方が役員、相談役として名を連ねていただき逢澤圭一郎の挑戦に力をお与え下さった。戦いの日まで半年間、毎月役員会を開き、ご助言、ご提言をくださったり、引き合わせで連れてまわってくださったり、名簿を書いてくださったり皆さんに逢澤圭一郎の名前を広めていただいた。そもそも、みさと団地から現住居に移ってきたのは8年前のことである。そんな新参者に対して、ご先祖代々からの地元の皆さんが温かく迎え入れ、支えて下さった。多くの皆様のお力、ご支援を頂き、『真・善・美』を胸に7月19日の戦いの日を迎えた。人前で演説をするのは初めてのことであり、しどろもどろにならないか心配だったが、すでに戦闘モードに入っていた。遊説カーで辻立ちをしながら訴え、遊説カーの前後を自転車に乗り市内を駆け回った。市内各所で温かいご声援をいただいた。このご声援をパワーに変えてまた走った。そして多くの方がこの暑い中、逢澤圭一郎のために力を注いで下さった。歩き部隊の皆さん、自転車部隊の皆さん、遊説カーの運転手さん、ウグイスさん、駅頭朝立ちをしてくださった皆さん、ポスター掲示をしてくださった皆さん、個人演説会で毎晩走りまわってくださった皆さん、力の源、美味しい食事を作ってくくださった皆さん、電話作戦にてお願い電話をしてくださった皆さん、そして事務所を守ってくださった皆さん、疲れて帰ってきたら笑顔で迎え入れてくださった皆さん、大西英男先生の秘書である山下先輩は1週間事務所に張り付いてくださった。ちなみに、山下先輩の奥さんは、故昼間校長先生と、私が北郷小学校の頃ご指導を頂いた、昼間行先生のお嬢さんです。(世間は狭いですね。大西先生の秘書時代は山下先輩ご夫妻に大変ご指導をいただきました)多くの皆様のお力と支えにより、選挙戦を無事終わる事ができた。心より感謝申し上げます。

いろいろなことを振り返りながら投票日を過ごしていた。夜、開票が始まり、当確の連絡があり、事務所に行った。支えて下さった皆様と大きく万歳三唱、本当に大きく万歳をした。最終結果2,928票という得票を頂戴し、**第2位**にて初当選をさせて頂いた。涙はなくそれよ

りご支援、ご期待をいただいたことを胸にこれから一議員として『真・善・美』を忘れずご期待に背かないよう行動していくことを再決意した。

## 市議会にて

平成 21 年 8 月 11 日臨時議会が召集され初めて議場に入る。神聖な場所であり知らず知らずに背筋が伸びる。無所属での立候補でしたが、議会制民主主義の中におきましては会派に所属することが責任ある政治への第一歩と考え、21世紀クラブ(自民党系)の会派に所属する。また、市民福祉常任委員会、三郷中央地区対策特別委員会、武蔵野操作場跡地対策特別委員会の各委員となる。

平成 21 年 9 月議会では今期初定例会が行われ、平成 20 年度決算を審議する。定例会の中では『一般質問』という議員に与えられた権利がある。市長を筆頭とする執行部の方々へ、一議員としてより良い街づくりのためにこうしたら良いのではないかと、こうしていくべきではないかという提案や要望を正式な形で発言できる重要なものである。初めて演台に登壇した時はさすがに緊張をした。しかし、思いを実現させたいという切なる願いがこの緊張をときほぐし声に力が入る。

「環境問題」" 三郷インターチェンジ付近のゴミポイ捨て問題について " 空き缶、ペットボトル、弁当の空箱、雑誌などなど...モラルの決如が言われている今日、平気で車から捨て去っていく人がいるという現状だ。この場だけではなく市内各所でボランティアにて清掃活動されている方々がいらっしやいますがいちごこの様相は変わらない。美しい街みさとに向け対処策、また捨てられない仕組みづくりをやっていくべきと訴える。

「交通対策」" 武蔵野線沿い新三郷駅～三郷駅(早稲田側)の歩道整備について " ららシティー新三郷のオープンにより交通量が増加している現状からみて、安心・安全の街づくりの観点から歩道整備は必要不可欠なことでありと訴える。今年 3 月頃、約 100m ほど歩道が延伸しました。

平成 21 年 12 月議会では次の 2 点を質問。

「福祉問題」" 高次脳機能障がい者支援に関して現状と今後の対策について " 高次脳機能障がい者が、平成 11 年の精神保健福祉法改正時から器質性精神障がいとして精神障がい者支援の枠組みで対応することになった。そして、平成 18 年の障がい者自立支援法の施行により市町村の責務がうたわれ対応することになった中で、更なる協力支援体制、そして「地域のネットワークづくり」「社会資源の開発」「普及啓発」というような具体的な取り組みを行っていくべきと訴える。

「交通対策」" 市道 0113 号線、市道 0205 号線交差点における信号機取り付けについて " 市立早稲田中学校の通学路でもある当交差点は、以前より接触事故、交通事故が絶えない。今日に至るまで様々な交通事故防止対策をされていることは当地を見ればよく分かるが、もはや現状維持では安心・安全な街づくりを遂行しているとは言えない。是非、道路拡幅も検討にいらしていただきながら、定周期式信号機、構造上、無理であるのなら一灯点滅式の信号機の設置を最優先に要望していただきたいと訴える。

平成 22 年 3 月議会では平成 22 年度予算が審議される。一般質問では次の 2 点を質問。

「教育問題」" 小学校統合について " 「防犯対策」" 防犯カメラ設置について "

詳細は同封されております地域だより NO.4 をご覧下さい。

# これから…

私の目指す街 " 三郷 " その実現に向けて

## 地域をよくする

市民のための市役所であり市議会です。地域の皆様の声、要望を市政に活かし、共に夢を育む三郷の街をつくります。

## 環境対策

江戸川と中川に囲まれた三郷市の特徴を活かし、水と緑の心豊かな街づくりを進めていきます。我々市民一人ひとりが、地球家族の一員として住環境をよくする体制を確立し、景観美化運動に対する支援の輪を広げていきます。

## 熟年・団塊いきいき社会を

少子高齢化が進む日本は、社会の第一線で活躍されてきた方々の力が必要です。地域での社会貢献活動など、高齢者の方々が生きがいを持っていきいきと暮らせるよう、おじいちゃんとおばあちゃんの経験と知恵、団塊世代の皆様のパワーを活かすしくみづくりを進めます。

## 教育再建

日本人として自国の歴史や伝統・文化に誇りを持てる教育、そして権利と責任や義務を正しく教え、倫理・道徳教育を、家庭・学校・地域社会連携のもとで行える取り組みを進めます。

## 安心・安全な社会を

住みよい街にするために、防犯、防災はかせません。現在、各町会で取り組んでいる諸活動を更に促進し、明るい街づくりを目指します。

## 産業振興と雇用の充実

企業誘致を推進しつつ雇用を拡大し、市財政の充実を図ります。併せて都市農業を振興し、地産地消の拡大を進めます。

少子高齢時代の波を正面に受けながら地方政治も国政も変革をして行かなければならない時である。木津市長は参加と協働の街づくりを提唱されている。市民皆様に街づくりへの参加をしていただくことが、国民が国づくりに参加することに繋がっていくのではないのでしょうか。ただただ前進することだけが発展ではないような気が致します。ふと振り返って、" よき時代の頑張る日本 " を見つめなおすこと、そしてそれを取り入れながら前進していくことが真の発展へと繋がっていくのではないのでしょうか。一年生議員として、地域がよくなるよう、元気な街三郷になるよう皆様の声、生の声を大事に、情熱を持って走り続けます。

平成 22 年 4 月 29 日

三郷市議会議員 逢澤圭一郎